

表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準
(A) 人間としての教養を身につける	人間の本質や歴史、及び文化、 社会とそれに関わる秩序などについて より深く考察できる。	(a) (b)	◎ ○	人間科学科目から、「技術者倫理」(必修2単位)を含めて16単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。
(A) 人間としての教養を身につける	国家間の関係、地球上の人々の 相互依存関係について、理解し、 説明できる。	(a) (b)	◎ ○	人間科学科目のうち、グローバル教養科目群(グローバル社会の市民論、比較文化論、地球環境論、国際政治の基礎、ヨーロッパ理解、アメリカ理解、アジア理解)(択一必修)より最低2単位以上を修得させ、シラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。これらの科目以外に、大項目(F)に該当する「技術英語(必修1単位)」においても異文化理解を修得させ、評価するが、(A)の単位要件には含まない。
(B) 技術者倫理を修得する	技術者が社会に対して大きな責任を負っていることを理解し、 技術者の倫理について事例を通して 考察できる。	(a) (b)	○ ◎	「技術者倫理」(必修2単位)の講義では、内外の事例を示すケーススタディを何回かとりあげ、その議論への参加を評価するとともに、産業界・学会で定める行動憲章や倫理規定(倫理綱領)の知識などを毎回のミニレポートによって評価する。また、期末学力考査により、総合的な理解度を評価する。評価基準は講義中のミニレポート50%、期末学力考査50%の割合で評価する。
(C) 電気電子工学技術者としての 基礎を十分に理解する	数学科目 電気電子工学分野の諸問題を 解決するための基本的な数学手 法として、微積分、線形代数 の基本概念および定理を理解 し、具体的な計算ができる。	(c) (d)	◎ ○	工学基礎科目から32単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。工学基礎科目32単位の中には、「数学科目(6単位)以上」、「自然科学科目(5単位以上)」、「コンピュータ科目(4単位以上)」を含めることを必要とする。 数学科目では、「微積分学および演習Ⅰ(必修4単位)」と「線形代数Ⅰ(必修2単位)」の修得を必要とする。 「微積分学および演習Ⅰ」(必修)の講義では、関数および極限の基本概念・定理および1変数の微分法、不定積分・定積分法を修得させ、中間考査と期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査30%、期末学力考査70%の割合で評価する。 「微積分学および演習Ⅱ」(選択)の講義では、多変数(特に2変数)関数の微分、積分の解法を習得させ、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。 「線形代数Ⅰ」(必修)の講義では、空間の方程式、ベクトルおよび行列の基本概念・定理および行列計算、連立一次方程式の解法を修得させ、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。 「線形代数Ⅱ」(選択)の講義では、行列式、数ベクトル空間、固有値と固有ベクトルについて習得させ、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト20%、期末学力考査80%の割合で評価する。 「ベクトル解析」(選択)の講義では、スカラー場・ベクトル場および線積分・面積分の基本概念、ベクトル解析における基本的な積分定理を修得させ、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト20%、期末学力考査80%の割合で評価する。 「微分方程式Ⅰ」(選択)の講義では、微分方程式の初等解法、すなわち積法の解説と基本的な諸定理の証明方法を習得させ、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト最大30点、期末学力考査70%の割合で評価する 「数値解析学」(選択)の講義では、さまざまな方程式、微積分、微分方程式などの数値解を得るための計算方法とそれの際に生ずる誤差について習得させ、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト20%、期末学力考査80%の割合で評価する。 「フーリエ解析」(選択)の講義では、フーリエ級数、フーリエ変換の基礎とその基本的な応用方法を習得し、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。 「複素解析学」(選択)の講義では、複素関数のテイラー展開やローラン展開の方法、これらの用いた正則関数や有理型関数の積分の計算方法を習得し、レポートと期末学力考査で評価する。評価基準は、レポート:期末学力考査=3:7の割合で評価する。

<p>(C) 電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する</p>	<p>自然科学科目 物理・化学の基本法則を理解し、具体的問題の計算ができるとともに、実験によって基本的法則や諸現象を確認できる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>◎ ○</p>	<p>工学基礎科目から32単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。工学基礎科目32単位の中には、「数学科目(6単位)以上」、「自然科学科目(5単位以上)」、「コンピュータ基礎科目(4単位以上)」を含めることを必要とする。</p> <p>「基礎物理学A」(必修)では、運動法則、運動エネルギーの基礎および基本物理現象の計算方法を修得させ、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。</p> <p>「物理実験」(必修)では、自然現象の基本法則の確認と測定技術を修得させ、レポートにより評価する。</p> <p>「基礎化学」(必修)では、材料や物質自身に対する化学的な知識や見方を習得させ、学力考査により評価する。評価基準は、学力考査100%で評価する。</p> <p>「化学・生物実験」(必修)では、化学および生物学の基礎知識や基本的手法や装置の取り扱い方を修得させ、レポートで評価する。評価基準は、レポートのみで評価する。</p> <p>「自然科学概論A」(選択)の講義では、剛体の力学、熱力学の基礎について習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%で評価する。</p> <p>「自然科学概論B」(選択)の講義では、振動、波動現象と電磁気学の基礎について習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%の割合で評価する。</p> <p>「自然科学概論C」(選択)の講義では、情報の基本概念、表現、処理を実現する方法について習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%で評価する。</p> <p>「自然科学概論D」(選択)の講義では、バイオテクノロジーについて習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%で評価する。</p> <p>「自然科学概論E」(選択)の講義では、物質と材料に関する基礎知識について習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%で評価する。</p> <p>「自然科学概論F」(選択)の講義では、デザインに関する科学的な理論、技術、応用例について習得し、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト30%、期末学力考査70%で評価する。</p>
<p>(C) 電気電子工学技術者としての基礎を十分に理解する</p>	<p>コンピュータ科目 PCを用いた情報処理の基礎知識およびプログラミングの基礎知識を理解し、PCによる情報の処理ができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>◎ ○</p>	<p>工学基礎科目から32単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。工学基礎科目32単位の中には、「数学科目(6単位)以上」、「自然科学科目(5単位以上)」、「コンピュータ基礎科目(4単位以上)」を含めることを必要とする。</p> <p>「コンピュータリテラシー」(必修)の講義では、情報処理の仕組み、ネットワーク利用法、文書作成法、表計算法、プログラミングの基礎を修得させ、演習・レポートと期末学力考査で評価する。評価基準は、演習・レポート:期末学力考査=1:1の割合で評価する。</p> <p>「コンピュータプログラミング」(必修)の講義では、C言語による基本的なプログラミングの技術とアルゴリズムの知識を習得させ、小テスト、演習、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト:演習:中間考査:期末学力考査=20:20:30:30の割合で評価する。</p> <p>「プログラミング」(選択)の講義では、関数、ポインタ、ファイル操作など研究・開発に必要なC言語文法について学び、実践的なプログラム作成能力を習得し、課題と期末学力考査で評価する。評価基準は、課題:期末学力考査=5:5の割合で評価する。</p>
<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>電氣的基礎知識を理解し、具体的な計算ができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「電磁気学および演習Ⅰ」(必修)の講義では、静電界および電流界の基本知識・定理を修得させ、中間考査、期末学力考査、演習課題で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:演習課題=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「電磁気学および演習Ⅱ」(必修)の講義では、磁界における電気現象の基本知識・定理を修得させ、中間考査、期末学力考査、演習問題で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:演習問題=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「電磁気学Ⅲ」(選択)の講義では、高周波における電磁気現象を修得させ、期末学力考査とレポートで評価する。評価基準は、期末学力考査:レポート=7:3の割合で評価する。</p> <p>「電気電子計測」(選択)の講義では、電気電子計測における基礎理論、測定方法および測定器を修得させ、中間考査と期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査40%と期末学力考査60%の割合で評価する。</p>

<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>回路の基本法則を理解し、各種回路の解析や具体的計算ができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「回路基礎(必須)の講義では、直流回路の基本知識を修得させ、平常点(小テストおよび課題)、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、平常点(小テストおよび課題)30%、中間考査35%、期末学力考査35%の割合で評価する。</p> <p>「回路理論および演習Ⅰ」(必修)の講義では、単相正弦波交流回路について修得させ、平常点(小テストおよび課題)、各中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、平常点(小テストおよび課題)25%、各中間考査計50%、期末学力考査25%の割合で評価する。</p> <p>「回路理論および演習Ⅱ」(必修)の講義では、相互誘導回路、二端子対回路、三相交流回路、歪波回路について修得させ、中間考査1、中間考査2、期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査1を25%、中間考査2を30%、期末学力考査を45%の割合で評価する。</p> <p>「電気数学」(必修)の講義では、電気回路の解析における数学知識やシステム方法論について修得させ、期末学力考査と演習で評価する。評価基準は、期末学力考査:演習=8:2の割合で評価する。</p> <p>「過渡現象」(選択)の講義では、電気回路現象の数学的取り扱い方法として直流電源や正弦波交流電源を伴うLCR回路の過渡現象について修得させ、小テストと期末学力考査で評価する。評価基準は、小テスト:期末学力考査=2:8の割合で評価する。</p>
<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>材料の特徴を決定している要因を充分に理解し、電気電子工学で使う各種材料の性質やそれらを利用した電子デバイスとの関連を理解し説明できる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「電気機器Ⅰ」(選択)の講義では、基本的かつ重要な電気機器である直流機と変圧器の基本原理解および諸特性について修得させ、中間考査と期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査50%、期末学力考査50%の割合で評価する。</p> <p>「電気機器Ⅱ」(選択)の講義では、誘導機と同期機の基本原理解および諸特性について修得させ、中間考査、期末学力考査、演習・課題で評価する。評価基準は、中間考査45%、期末学力考査45%、演習・課題10%の割合で評価する。</p> <p>「電気材料」(選択)の講義では、導電材料、半導体材料、絶縁材料、磁性材料の特長および応用分野について修得させ、期末学力考査とレポートで評価する。評価基準は、期末学力考査80%、レポート20%の割合で評価する。</p>
<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>信号処理を支える基礎事項と方法について理解し、プログラミングを用いた応用ができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「情報理論」(選択)の講義では、情報通信における情報の基礎理論について修得させ、中間考査、期末学力考査、演習で評価する。</p> <p>「デジタル回路」(選択)の講義では、論理関数、組合せ回路、D/AおよびA/D変換回路について修得させ、演習、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、演習:中間考査:期末学力考査=2:3:5の割合で評価する。</p> <p>「デジタル信号処理」(選択)の講義では、デジタル信号処理の本質の理解ならびに具体的な処理方法について修得させ、中間考査、期末学力考査、演習点で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:演習点=3:5:2の割合で評価する。</p> <p>「制御工学Ⅰ」(必修)の講義では、1入力1出力の線形フィードバック制御システムの取扱について修得させ、中間考査、期末学力考査、課題で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:課題=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「制御工学Ⅱ」(選択)の講義では、システムの表現法、解析法、設計法について修得させ、中間考査、期末学力考査、課題で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:課題=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「デジタルシステム」(選択)の講義では、デジタル回路およびその設計に関する知識を深め、システムの設計手法について修得させ、中間考査、期末学力考査、演習で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:演習=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「システム工学」(選択)の講義では、システムのモデリング、特性解析、最適化について修得させ、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。</p> <p>「スマート信号処理」(選択)の講義では、代表的な信号処理技術であるデジタルフィルタの原理および設計法について修得させ、中間考査、期末学力考査、演習で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:演習=4:4:2の割合で評価する。</p>

<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>エレクトロニクス分野で基本となる電子デバイス、電子回路等について理解し、その動作の説明や特性解析および回路設計ができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「電子回路Ⅰ」(必須)の講義では、ダイオードとトランジスタを用いた基本回路について修得させ、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査=1:1の割合で評価する。</p> <p>「電子回路Ⅱ」(選択)の講義では、各種増幅回路、各種発振回路、パルス回路、電源回路について修得させ、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査=1:1の割合で評価する。</p> <p>「電子デバイスⅠ」(選択)の講義では、半導体の物性、ダイオードとトランジスタの原理や特性について修得させ、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査50%、期末学力考査50%の割合で評価する。</p> <p>「電子デバイスⅡ」(選択)の講義では、電界効果トランジスタ、太陽電池、発光デバイスの動作原理、特性について修得させ、習熟度確認、期末学力考査で評価する。評価基準は、習熟度確認50%、期末学力考査50%の割合で評価する。</p> <p>「パワーエレクトロニクス」(選択)の講義では、コンバータ・インバータの原理ならびに電力変換回路の基礎について修得させ、期末学力考査と課題で評価する。評価基準は、期末学力考査:課題=8:2の割合で評価する。</p> <p>「高周波回路」(選択)の講義では、高周波回路の素養と基礎について修得させ、期末学力考査と演習・小テストで評価する。評価基準は、期末学力考査:演習・小テスト=8:2の割合で評価する。</p> <p>「医用電子工学」(選択)の講義では、生体電気計測および生体磁気計測の基礎ならびに生体計測用電子回路の基礎について修得させ、中間考査、期末学力考査、レポートで評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査:レポート=4:4:2の割合で評価する。</p> <p>「電気電子キャリア総合演習」(選択)の講義では、電気電子工学の基礎および専門知識、実社会で必要な総合的知識について修得させ、講義、演習で評価する。評価基準は、講義50%、演習50%の割合で評価する。</p> <p>「電気法規」(選択)の講義では、電気事業法、電気設備の技術基準および関連法について修得させ、平常点、レポート、期末学力考査で評価する。評価基準は、平常点:レポート:期末学力考査=4:2:4の割合で評価する。</p> <p>「集積回路」(選択)の講義では、MOSアナログ集積回路の解析および設計について修得させ、中間考査、期末学力考査で評価する。評価基準は、中間考査:期末学力考査=1:1の割合で評価する。</p> <p>「電機設計および電気製図」(選択)の講義では、誘導電動機および同期発電機の設計、高圧受配電設備の接続図について修得させ、レポート課題で評価する。評価基準は、レポート課題100%で評価する。</p> <p>「センサ工学」(選択)の講義では、センサの動作原理、構造、特性、応用技術について修得させ、期末学力考査で評価する。評価基準は、期末学力考査100%で評価する。</p> <p>「インターンシップ」(選択)の講義では、自らの専門、将来のキャリアに関連した就業体験を行い、専門科目において修得した工学の基礎知識を深めさせ、ガイダンスの出席、実習先企業担当者の所見、実習報告書で評価する。評価基準は、企業先に応じて評価する。</p>
<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D1) 専門分野の基礎理論および知識の十分な修得と、電気電子工学全般の基礎知識を修得する</p>	<p>電力エネルギー分野における高電圧の必要性、高電圧現象の基礎を理解し、電力エネルギーの発生、輸送に関する計算などができる。</p>	<p>(c) (d)</p>	<p>○ ◎</p>	<p>専門科目から33単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。専門科目33単位の中には、「回路基礎(必修2単位)」、「回路理論および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電磁気学および演習Ⅰ、Ⅱ(必修各4単位)」、「電子回路Ⅰ(必修2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「高電圧工学」(選択)の講義では、高電圧現象の基礎過程、放電現象の物理、高電圧解析技術について修得させ、期末学力考査で評価する。</p> <p>「送配電工学」(選択)の講義では、対称三相回路解析、送電線・変圧器の等価回路および電力潮流計算について修得させ、期末学力考査、レポートで評価する。評価基準は、期末学力考査:レポート=8:2の割合で8:2で評価する。</p> <p>「電力系統工学」(選択)の講義では、電力系統全体の総合的な特性および制御方法について修得させ、期末学力考査、レポートで評価する。評価基準は、期末学力考査:レポート=8:2の割合で評価する。</p> <p>「発電工学」(選択)の講義では、火力発電、水力発電、原子力発電の原理ならびに構成について修得させ、期末学力考査とレポートで評価する。評価基準は、期末学力考査:レポート=8:2で評価する。</p>

<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D2) 実験を通じて基本的諸現象の理解を深め、実際の知識を習得するとともに実技能を高める</p>	<p>電磁気学や回路理論の基本的事項について実験を通して理解し、測定装置の操作方法、実験の進め方、測定データの取り扱いなどを習得することで電気電子工学の基本現象を実験で検証できる。</p>	<p>(d) (g) (i)</p>	<p>◎ ◎ ○</p>	<p>実験科目から8単位を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。実験科目8単位の中には、「電気電子工学基礎実験Ⅰ、Ⅱ(必修各2単位)」、「電気電子工学実験Ⅰ、Ⅱ(必修各2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「電気電子工学基礎実験Ⅰ」(必修)および「電気電子工学基礎実験Ⅱ」(必修)の講義では、実験結果をレポートにまとめさせ、実験担当者と内容について討議することで実験結果の持つ工学的意味の理解を深めさせる。本講義は、実験報告書の内容、実験ノートの内容、期末学力考査で評価する。評価基準は、実験報告書の内容90%、実験ノートの内容5%、期末学力考査5%の割合で評価する。</p>
<p>(D) 電気電子工学専門技術者としての学力を身につける</p> <p>(D2) 実験を通じて基本的諸現象の理解を深め、実際の知識を習得するとともに実技能を高める</p>	<p>電気工学、電子工学、情報工学の講義で修得した諸現象の知識を実験を通して確認できる</p>	<p>(d) (g) (i)</p>	<p>◎ ◎ ◎</p>	<p>実験科目から8単位を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。実験科目8単位の中には、「電気電子工学基礎実験Ⅰ、Ⅱ(必修各2単位)」、「電気電子工学実験Ⅰ、Ⅱ(必修各2単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「電気電子工学実験Ⅰ」(必修)および「電気電子工学実験Ⅱ」(必修)の講義では、実験結果をレポートにまとめさせ、データの妥当性を説明させることで講義で修得した知識の理解度を深めさせる。本講義は、レポートの内容、プレゼンテーション、期末学力考査で総合的に評価する。</p>
<p>(E) 課題解決能力を高める</p> <p>(E1) 与えられた課題制作および回路設計を通じて、種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を修得する</p>	<p>仕様を満足するために、創意工夫しながら最適な解決方法を考案できる</p>	<p>(e) (g)</p>	<p>◎ ○</p>	<p>設計開発・デザイン科目から2単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「ワークショップ入門」(選択)の講義では、製作する装置の目的、動作を理解し、目的を達成するために各部に必要な機能・要件を自ら発見しながら設計・製作・調整する技術を習得させる。本講義は、作業時間数、完成品の性能試験の結果、発表、期末学力考査で評価する。評価基準は、作業時間数40%、完成品の性能試験の結果30%、発表20%、期末学力考査10%の割合で評価する。</p>
<p>(E) 課題解決能力を高める</p> <p>(E1) 与えられた課題制作および回路設計を通じて、種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を修得する</p>	<p>電気電子工学に関する専門技術の問題解決に応用できる</p>	<p>(e) (g)</p>	<p>◎ ○</p>	<p>設計開発・デザイン科目から2単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「電子回路設計」(選択)の講義では、基本的な電子回路(オペアンプ、トランジスタ回路、デジタル回路)を与えられた設計仕様を満足するように創意工夫して設計させる。本講義は、レポート課題1、レポート課題2、期末学力考査で評価する。評価基準は、レポート課題1を30%、レポート課題2を30%、期末学力考査40%の割合で評価する。</p>
<p>(E) 課題解決能力を高める</p> <p>(E2) 問題点の発見や課題解決能力に加えて、プロジェクト遂行能力、創造的な学習能力ならびにチームで仕事をする能力を修得する</p>	<p>与えられた制約の下でプロジェクトを遂行し、目標を達成できる</p>	<p>(f) (g) (h) (i)</p>	<p>○ ◎ ◎ ◎</p>	<p>研究科目から8単位を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「卒業研究」(必修)では、課題を理解・分析した上で解決方法を考案させ、目標が達成できたかどうかを指導教員以外の評価と指導教員の評価で評価する。評価基準は、指導教員以外の評価20点、指導教員の評価80点の割合で評価する。</p>
<p>(E) 課題解決能力を高める</p> <p>(E2) 問題点の発見や課題解決能力に加えて、プロジェクト遂行能力、創造的な学習能力ならびにチームで仕事をする能力を修得する</p>	<p>状況の変化に応じて創造的な活動をするために学習を継続できる</p>	<p>(f) (g) (h) (i)</p>	<p>○ ○ ◎ ◎</p>	<p>研究科目から8単位を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「ワークショップ」(必修)の講義では、与えた電気電子工学分野における技術設計課題に対して複数の解決方法を考案させ、制約条件とチーム内での論理的議論より選択した1つの解決方法案に対して計画立案と課題解決のための作業を遂行させる。最後に、実施過程と得られた結果を第三者に発表させる。本講義は、グループワークで作成した議事録の内容、グループ内の自分以外のメンバーおよびファシリテータからの貢献度評価、第三者評価会での報告内容で評価する。評価基準は、グループワークで作成した議事録の内容40点、グループ内の自分以外のメンバーおよびファシリテータからの貢献度評価50点、第三者評価会での報告内容40点の割合で評価する。</p>
<p>(F) コミュニケーション/プレゼンテーション能力を高める</p>	<p>英語科目 英語による基礎的なコミュニケーションができる</p>	<p>(f)</p>	<p>◎</p>	<p>コミュニケーション・プレゼンテーション科目から12単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。コミュニケーション・プレゼンテーション科目12単位の中には、「英語科目(8単位以上)」、「コミュニケーション科目(4単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>「総合英語Ⅰ」、「総合英語Ⅱ」、「総合英語Ⅲ」、「総合英語Ⅳ」(選択)の講義では、英語の文法・語彙・語法を身につけさせ、読む、書く、聞く、話すの4技能を習得させ、シラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「口語英語Ⅰ」、「口語英語Ⅱ」(選択)の講義では、特に会話技術を習得させ、シラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「英語演習A」、「英語演習B」、「英語演習C」、「英語演習D」、「英語演習E」、「英語演習F」、「英語演習G」、「英語演習H」、「英語演習I」の講義では、TOEICスコアの向上および実践的かつ実用的な英語能力を習得させ、シラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。</p> <p>「海外英語短期研修」(選択)では、英語だけの環境に身を置き、集中的に英語能力を習得させる。本講義は、受け入れ先大学の採点基準に従って評価する。</p>

<p>(F) コミュニケーション／プレゼンテーション能力を高める</p>	<p>コミュニケーション科目 英語による専門的な科学技術に関するコミュニケーションができる</p>	<p>(f)</p>	<p>◎</p> <p>コミュニケーション・プレゼンテーション科目から12単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。コミュニケーション・プレゼンテーション科目12単位の中には、「英語科目(8単位以上)」、「コミュニケーション科目(4単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>コミュニケーション科目では「技術英語(必修1単位)」、「コンピュータプレゼンテーション(必修2単位)」、「電気電子工学リテラシー(選択1単位)」の修得を必要とする。</p> <p>「技術英語」(必修)の講義では、実践的科学技術英語に対して基礎的な専門英語の読解を修得させ、授業中の評価、小テスト、期末学力考査または期末レポートで評価する。評価基準は、授業中の評価:小テスト:期末学力考査または期末レポート=5:3:2の割合で評価する。</p>
<p>(F) コミュニケーション／プレゼンテーション能力を高める</p>	<p>コミュニケーション科目 日本語による論理的な記述ができる</p>	<p>(f)</p>	<p>◎</p> <p>コミュニケーション・プレゼンテーション科目から12単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。コミュニケーション・プレゼンテーション科目12単位の中には、「英語科目(8単位以上)」、「コミュニケーション科目(4単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>コミュニケーション科目では「技術英語(必修1単位)」、「コンピュータプレゼンテーション(必修2単位)」、「電気電子工学リテラシー(選択1単位)」の修得を必要とする。</p> <p>「電気電子工学リテラシー」(選択)の講義では、抵抗回路、直流回路、SPICEを使用した回路シミュレーションのテーマに対して聴講した講義内容や実習内容を発表させ、基礎的なコミュニケーション能力を習得させる。本講義は、講義、実習、発表、期末学力考査で評価する。評価基準は、講義21%、実習40%、発表30%、期末学力考査9%の割合で評価する。この科目以外に、大項目(E)に該当する「卒業研究(必修)」においても卒業論文および予稿を提出させ、評価するが、(F)の単位要件には含まない。</p>
<p>(F) コミュニケーション／プレゼンテーション能力を高める</p>	<p>コミュニケーション科目 コンピュータを用いて専門に関する明解なプレゼンテーションができる</p>	<p>(f)</p>	<p>◎</p> <p>コミュニケーション・プレゼンテーション科目から12単位以上を修得させ、各科目のシラバスに記載の評価方法および評価基準により評価する。コミュニケーション・プレゼンテーション科目12単位の中には、「英語科目(8単位以上)」、「コミュニケーション科目(4単位)」を含めることを必要とする。</p> <p>コミュニケーション科目では「技術英語(必修1単位)」、「コンピュータプレゼンテーション(必修2単位)」、「電気電子工学リテラシー(選択1単位)」の修得を必要とする。</p> <p>「コンピュータプレゼンテーション」(必修)の講義では、コンピュータを活用したプレゼンテーション技術を修得させ、発表内容、他者の発表に対する質疑と講評で評価する。評価基準は、発表内容70%、他者の発表に対する質疑と講評30%の割合で評価する。この科目以外に、大項目(E)に該当する「卒業研究(必修)」においても卒業研究発表会に参加・発表させ、評価するが、(F)の単位要件には含まない。</p>